

日韓青少年交流キャンプ Reboot2023 感想

日韓青少年交流キャンプに参加した、成蹊高校1年H組安原直正です。このキャンプは、韓国と日本の交流を目的としたもので、日韓の学生が協力して今後の社会に役に立つアイデアを出し、それを実践する自分たちの会社を作る、というプログラムを行いました。

自分がこのキャンプに参加して良かったと思ったことは主に3つあります。

1つ目は短期間ながらも密な交流が持てた事ことです。

今回は韓国と日本の学生が15人ずつ参加し、日韓混合で3班に分かれてプログラムを遂行し共に行動しました。韓国の学生の殆どが英語を話すことができ、中には日本語も話せる人もいたお陰で、話し合いが深まりました。自分が外国に行った先で自分の母国語を話してもらえると、自分の国に関心を持ってきている事が伝わりととても嬉しく思うと同時に、自分も韓国語を学んでくるべきだったと大変後悔しました。韓国の学生はとてもフレンドリーで話しやすく、自分も様々なアイデアを出せましたし、話し合いもスムーズに深まりました。宿泊先の部屋は韓国の学生2人と自分の3人部屋でした。英語でコミュニケーションしながら韓国と日本のことについて日本人にはない視点で話してくれて、実際に会って話せたのでお互いの気持ちや本音伝わり、こうやって対面で交流する意味や大切さを感じました。また日本の学生も大阪から岩手まで様々な学校から集まったので他校の話が聞けたのも良い刺激となりました。

ほかの参加者たちとの写真



通常のプログラム意外にも、誕生日を迎えた韓国の学生の皆さんでお祝いをしたり、お別れ会では歌い踊り徹夜で語り合い本当に楽しく過ごしました。

2つ目は個人では中々出来ない体験をさせてもらえたことです。先ほど少し触れましたが、各班ごとに課題が決まっていますその課題に沿った企業を1つ選び、その会社へインタビューに行きました。私たちの班はSDGS15の「陸の豊かさ」と「食事」がお題だったため{midbar}という水が無くても植物を育てる技術を開発した会社を訪問させていただきました。その会社 CEO や社員の方々が自分達の班へのアドバイスの他にも、起業や会社経営に関して様々な事を話して下さいました。その会社の方が、経営する上で大事にしていることは、自分達の事業はオリジナリティーがあるか、社会で役立っているか、そして何よりも事業を継続することが大事だと仰ったことが大変印象に残りました。

作業風景



3つ目は、このプログラムにはOB、OG会がありプログラムが終わった後も活動が続いているという事です。このプログラムにはOB,OG会 {JKSFF} という団体があり、継続的に韓国のOB,OG会とコンタクトを取り、日本では月に2回程度会合を開き、韓国と日本の関係について話し合っています。時には韓国のOB、OG会とZOOMで会議しています。また、半年に一度韓国の人たちと直接会う機会があり、開催地は韓国と日本交互で実施し、日本でやる際には自分たちで場所を決めたり、自主性を重んじながらも日韓経済協会の方々のサポートや助言を頂きながら活動しています。私はまだこの活動に何回かしか参加していませんが、OB,OGの方々は全員とても熱心に活動されていて大変勉強になる会だと思いきれからも活動に参加させてもらいたいと思っています。

個人では中々いけない場所に行かせてもらい、様々な経験をさせて頂き、高校生活の中でも思い出深い機会となりました。そして何よりも心に残ったのは韓国の学生の方々がスピーチが上手くリーダーシップもありみんな大人っぽくでも優しい人達ばかりで自分も頑張ら

なければと焦りに似た気持ちが湧いていきます。

最後にこのキャンプを開催して下さった日韓経済協会の皆様と関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。